

大学院学際リサーチプログラムについて

Ⅰ 学際リサーチプログラムとは？

大学院における既存のカリキュラムとは別に、研究科および専攻横断型の新しい教育プログラムを開講し、以下のニーズに応えます。

- ◆従来の専門性に加え、学際性・汎用性をもった幅広い知識・調査方法等を修得することができます。
- ◆複数の研究科及び専攻の科目から成る体系的なカリキュラムを履修することができます。
- ◆研究機関のみならず、企業、自治体、NPO、学校教育等で活躍できる、グローバルな視点を持った高度専門職業人を目指すことができます。
- ◆修士（学術）の学位を授与します。

Ⅰ 開講プログラム

以下の2つのプログラムを開講しています。学際リサーチプログラム履修生は、指導教員が担当する研究科及び専攻に所属します。

【地域コミュニティ・イノベーションプログラム】

◆参加研究科・専攻・担当指導教員

- ・人文科学研究科社会・文化論専攻修士課程
高岡 弘幸 教授（都市生活文化） 平田 暢 教授（地域社会意識分析）
- ・経済学研究科経済学専攻博士課程前期
五十嵐寧史 教授（都市情報論） 梶井 昌邦 教授（地域計量分析）
姜 文源 教授（社会経済学） 李 明哲 教授（社会モデル解析）
齋藤 参郎 非常勤（ビッグデータと回遊アナリティクス）
- ・商学研究科商学専攻博士課程前期
合力 知工 教授（企業と社会） 太宰 潮 准教授（消費者データ分析）
田村 馨 教授（流通システム） 福山 博文 教授（経営データ分析）
藤野 真 准教授（経営管理） 村上 剛人 教授（マーケティング論）

◆3つのポリシー

・アドミッション・ポリシー

本プログラムは、社会起業、ローカル・ビジネスの創出等のコミュニティ変革、及び、調査の実施、解析、解析結果にもとづく政策や戦略を分析、評価できる新しいタイプの高度専門職業人または研究者の育成をその基本理念とする。また、自治体・企業・地域等との連携研究プロジェクトを積極的にプログラムに導入し、現場主義にもとづく、実践的な教育にも重点を置く。本プログラムは、このような理念や考え方にもとづき地域やコミュニティの牽引を志す者を、広く社会人を含め受け入れる。これにより、地域や社会が抱える様々な課題を発見し、問題解決のための定式化を行い、持続的なコミュニティ・システムの構築能力、科学的根拠に基づいた創造的な地域政策、及び企業戦略の提言能力をもち、地域を牽引する人材の輩出を目指す。

・カリキュラム・ポリシー

本プログラムは、「地域コミュニティ・イノベーション学」を構成するために、社会学、文化人類学、商学、経済学、データサイエンスなどの諸分野を横断的に融合させる。加えて、現場の視察やフィールド調査、地域や企業を含めた現場との議論を行う科目を導入する。これにより、従来型のカリキュラムでは実現不可能であったコミュニティや地域を創造的に変革させる能力育成のための体系的な学際のカリキュラムを構成する。

・ディプロマ・ポリシー

持続的な地域社会システム創成、科学的根拠に基づく地域政策や企業戦略考察のための理論、モノの見方、具体的な分析方法等の修得を通じて、高度専門業務に従事するために必要な知識力・実践力・応用力・提案力・総合力を身につける。その研究活動の成果を修士論文としてまとめさせ、修士（学術）を授与する。また「専門社会調査士」の資格取得も視野にいれる。

【東アジア比較文化研究プログラム】

◆参加研究科・専攻

- ・人文科学研究科日本語日本文学専攻博士課程前期
江口 正 教授（日本語学） 林 信蔵 准教授（比較文学）
- ・人文科学研究科社会・文化論専攻修士課程
植野 健造 教授（日本文化論） 岸根 敏幸 教授（日本宗教、日本神話）
宮岡真央子 教授（比較文化論）
- ・経済学研究科経済学専攻博士課程前期
辰己 佳寿子 教授（農村社会学） 瀬戸林 政孝 准教授（アジア経済史）

◆3つのポリシー

・アドミッション・ポリシー

本プログラムは、「福岡」という地の利を生かし、東アジア全域の文化を構成する文学、言語、民俗、宗教、哲学、経済などの諸分野を、比較の視座のもとで幅広く修得させることを目標とする。ここでいう比較は、研究に限定された comparison という意味を超えて、交流や視座の相補性を含む transaction を意味しており、一定の日本語能力を有し多文化理解に積極的な留学生のみならず、専修分野に対して学部段階で未修得の日本人学生も受け入れ、社会教育・文化交流の振興等を担うことのできる高度専門職業人及び研究者の育成を目指す。

・カリキュラム・ポリシー

東アジア文化圏に関わる諸地域（アジア全般、中国大陸、台湾、日本など）をフィールドとする文化人類学・民俗学、宗教学、思想・哲学、経済史、社会学、文学、言語学系科目を幅広く設定するほか、既に本学もしくは他大学等で博物館学芸員資格（民俗）や日本語教授資格を取得した学生に関してその実践力を強化する専修分野も設け、演習指導教員の履修指導の下に学部教育と連携した調査・研究を生かしたカリキュラム構成を特色とする。さらに、地域連携や社会貢献を旨として地方自治体や各種企業との協力を図り、各演習の中に地域（社会）連携セミナー等も導入する。

・ディプロマ・ポリシー

東アジア文化に関する幅広い知識と、比較（交流）の相補的観点に基づいた課題発掘・調査能力を修得させ、各年度に設けられるプログラム担当教員及び履修生全員参加を原則とする論文・課題検討会を経て、最終的には修士論文として提出させ、修士（学術）を授与する。

I 入学試験から学位授与までの流れ

